

母壺

2021・2・8

VOI-51

illustrated by Tsugumi



『 気前よく「お返し」しよう 』 いのはなはるこ

つき組ロクのねはん会劇づくりの報告会は続きました。
明日は本番だから楽しみにしているね、と言うと。
「昨日ね(リグループ)の使うネックレスが壊れちゃったの。大丈夫かな。」と。
「あと、ママ絶対に、リヒトくんたちの(あグループ)のお話見てね。すごいから！」
「ほとけさまも出てくるんだよ。楽器も使うんだよ。」と、推してきます。

暖かな本番の日、今回はつき組3グループの劇を観せてもらいました。
それぞれのグループの子どもたちで作った道具と脚本。
驚いたことに、つき組の5つのグループ全部が結末に「お返し」をしているのです。
お薦めの(あグループ)は本当におほとけさまが出てきました。
森をお菓子の森にしてくれたほとけさまにお礼のケーキを渡します。
(たグループ)もせっかく見つけた宝箱から金色の宝を最後はみんなに渡します。
ロクの心配していたネックレスも(リグループ)に出てきました。
人魚たちのネックレスを探して、みんながお礼に真珠をもらいました。

子どもたちは劇で「正しい」ことではなく「楽しい」ことをやっているはずです。
子どもたちはお礼にお返しをすることが「楽しい」と無意識に入っているんだ。
そのことに気づき、驚きました。どの劇も気前よくお返ししています。
え？そのサメにもお宝あげちゃうの？と思うくらい子どもたちは気前が良いのです。
悪者をこらしめるでもなく、正直者が得をする話でもありませんでした。
『桃太郎』や『舌きりすずめ』はおとなが作ったお話なんですね。
善悪や損得よりずっと先に「感謝」を楽しんでいる子どもたち。
気前よくお返しする気持ちを持っている。
やっぱり子どもたちにはかなわないな、とまた思われました。

harukoinohana1717@gmail.com